

地域の実情と課題

本町の女性就業率は全国や京都府より低く、20代～30代での正規雇用者の女性割合は多いが40代以降は非正規雇用者の割合が多くなっている。また、ひとり親家庭においても生活困窮家庭の割合は多いが、生活困窮家庭は自ら困難を訴えづらいことを鑑み、早期発見・早期支援に努め、社会的孤立に陥ることのないよう相談事業の充実を図り対策に取り組む必要がある。

事業の特徴

主な事業内容としては、
○定期的な居場所の提供
○日中のフリースペース開放
○町事業への参加(PR)

事業の効果

目標240名に対して参加者は延べ335名であった。
せいか祭りにて本事業のPRブースを設置し、活動周知やNPO法人お客様がいらっしゃいました。による生理の実験などを行った。
女性特有の体の悩みなどを打ち明けられる場所となりつつある。
参加者数 実績…335名

目的・目標

様々な課題・困難を抱える女性・母子に対し、行政だけでは手が届きにくい支援をNPO法人等の団体の知見や能力を活用しながら効果的に進めていく。また、問題を抱える女性の不安や悩みの解消を図り、必要に応じ関係機関等の相談窓口等につなげ、相談支援につながった女性がエンパワーメントされ、再スタートできるような居場所作りを行うことを目的とする。

参加者数 目標…240名

連携団体

NPO法人 プラッツ(障害福祉サービス生活介護就労継続支援B型事業で、カフェ運営等を実施している)

NPO法人 お客様がいらっしゃいました。(大学生が中心となり設立した団体。生理に悩む方への支援や理解促進活動を実施している)

今後の課題

SNS等での情報発信の他、支援機関などで、対象となる方に事業の周知、案内を送付するなど、さらなる事業の周知が必要。

大人数が苦手に参加しづらくなる方への対応が必要。

事業の概要

精華町つながりサポート事業

様々な困難を抱える女性に対して、女性特有の悩みを語る場や、ちょっとした不安を語り合える居場所を提供した。居場所は様々な生活スタイルの女性が参加しやすい様に、開催時間を昼と夜に設定し実施した。毎月テーマを設定し、参加者同士の交流が図れるように工夫した。居場所事業実施場所で生理用品の配布を行った。毎月の居場所事業とは別に、せいか祭りに出店し事業のPRと子ども向けのミニ生理教室を行った。



開催スペース
(役場内にありアクセスしやすい)

総参加者数
335名
(目標：240名)



↑せいか祭りでの事業PRの様子
ミニ生理教室を開催し多くの子どもたちが参加した

『防災』がテーマの月には、参加者が
HUG訓練を体験した→



ミニ講座の様子